

2025年6月13日

報道機関各位

学校法人 塚本学院

令和7年度 大阪芸術大学所蔵品展

「Around EXPO'70—当時の大阪芸術大学と日本万国博覧会—」が開催

■会期・場所 2025年6月23日(月)~7月9日(水) 大阪芸術大学 芸術情報センター 展示ホール

大阪芸術大学（学校法人塙本学院／所在地：大阪府南河内郡／学長：塙本邦彦）が運営する大阪芸術大学博物館は、2025年6月23日（月）～7月9日（水）に大阪芸術大学 芸術情報センター 展示ホールにて、令和7年度 大阪芸術大学所蔵品展「Around EXPO'70 —当時の大阪芸術大学と日本万国博覧会—」を開催します。本展では、今年の「大阪・関西万博」開催を機に、1970年に大阪・千里丘陵で開かれた「日本万国博覧会（大阪万博）」と本学の繋がりについてと、当時1970年頃の本学の動向を、多様な所蔵品を通してご紹介します。



ポスター・デザイン：大阪芸術大学 デザイン学科 3年 藤本爽加

本展では、1970年の「日本万国博覧会（大阪万博）」に本学の黎明期を重ね合わせています。1970年頃の本学は、1964年に大阪府河南町に開学してまだ10年に満たない時期でした。南河内のどかな丘陵地に次々と新しい校舎が建てられ、キャンパスが拡張していくと共に、新しい学科も次々と立ち上げていきました。同時に、様々な芸術文化領域の第一線で活躍していた多くの作家・専門家・研究者などを教員に招聘して、現在の本学の基盤が形成された時期でもありました。

そんな本学の黎明期と時を重ねて、同じ大阪で1970年に開催された日本万国博覧会では、複数名の本学教員が各々の専門性を生かして、その現場に深く参画していました。第二次世界大戦の終戦から25年が経過したこの機に開催された当時の万博は、「戦後」のイメージを払拭して、世界規模で直面する課題と未来への展望を日本から提示し、世界へ発信することを志向していました。さらに、当時も漂っていた東京一極集中の風潮の中で、大阪の存在意義を国内外に示す狙いがあった万博の開催と、大阪の新進の総合芸術大学として急成長し、個性的な芸術教育の実践を積極的に発信しようとしていた本学の動きは、偶然ながらも重なるように思えます。

本展では、大阪万博に関わった教員 5 名の作品や、彼らの万博との関わりを示す資料をはじめ、万博会場で展示・使用された後に本学が保管している作品や資料、さらに当時の本学で教鞭をとっていた教員 14 名の主に同時期に制作・発表した作品などをあわせて公開します。当時と現在では、社会をとりまく環境や価値観の違いは随所にありますが、約半世紀前の本学と大阪万博の動向に触れて、いま大阪で開催中の万博と本学のそれぞれの現状やこれからの展望に、思いを巡らせる機会となれば幸いです。

■展示構成

1. 「大阪万博」に関わった教員たち

1970 年の大阪万博の現場の中核に関わった 5 名の教員を取り上げ、彼らと万博の関わりを示す資料の他、画家・デザイナーなど各々の専門分野で発表した作品を紹介します。

2. 本学に遺された「大阪万博」の痕跡

本学では、大阪万博のチェコスロバキア館で展示されていた作品 2 点と、お祭り広場のメインコントロールルームで使用されていたテープレコーダーを所蔵しており、これらの実物または関連資料を展示します。

<参考画像>



ラディスラフ&クヴェタ・ガンドル
《新しい命》(現在、本学 11 号館横に恒久設置)



S・リベンスキー & J・ブリフトヴァ
《生命の川》(2023 年の所蔵品展にて一部公開)

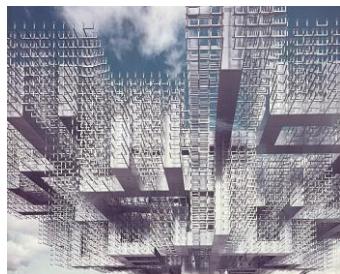
3. 1970 年ごろの大坂芸術大学

大阪万博の開催を巡る動きが本格化した 1964 年に、本学は「浪速芸術大学」として開学しました。2 年後に現在の「大阪芸術大学」の名称になり、開学から 10 年後には 14 学科へと大きく拡張し、現在の総合芸術大学としての基礎が出来上がりました。当時教鞭を執っていた教員 14 名の同時期の作品を中心に展示し、当時の本学の資料もあわせて公開します。

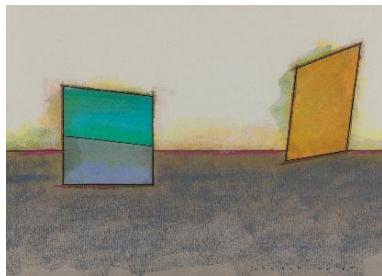
■出展予定作品・資料



① 資料写真
「大阪芸術大学キャンパス第四期工事風景」1971 年頃



② 岩宮 武二《万博（スイス館）》1970 年



③ 早川 良雄《形状IV》1975年



④ 現代芸術研究所
『日本万国博覧会テーマ展示 基本計画報告書』
1968年（小松左京ライブラリ所蔵、大阪芸術大学図書館寄託）



⑤ 松井 正《日曜日のチュルリー公園》1968年



⑥ 第一工房（高橋 靖一）
「浪速芸術大学 第一期工事模型」1965年頃



⑦ 柳原 瞳夫
《紺釉・金銀彩・花瓶》1971年



⑧ 田中 照三「『ダイヤルMを廻せ』
舞台美術エスキース」1967年

■出展作家／教員

大阪万博に参画した教員

中村 真、早川 良雄、田中 健三、大高 猛、小松 左京

当時（1970年頃）の大阪芸術大学で教鞭を執った教員

松井 正、津高 和一、泉 茂、船井 裕、持田 総章、ヨゼフ・ミューラー=ブロックマン、西脇 友一、高橋 靖一、岩宮 武二、本野 東一、林 康夫、柳原 瞳夫、田中 照三、佐々木 侃司

■開催概要

- ・タイトル：令和7年度 大阪芸術大学所蔵品展 「Around EXPO'70 —当時の大阪芸術大学と日本万国博覧会—」
- ・日時：2025年6月23日（月）～7月9日（水）11時～18時（※日曜日休館）
- ・場所：大阪芸術大学 芸術情報センター 展示ホール（〒585-8555 大阪府南河内郡河南町東山469）
- ・アクセス：近鉄南大阪線「大阪阿部野橋」駅より「河内長野」行き準急に乗車、「喜志」駅下車。
「喜志」駅前より大阪芸術大学スクールバス（随時運行）、または
4市町村コミュニティバス（「近つ飛鳥博物館前」行きに乗車、「東山」停留所下車）をご利用ください。
- ・入場料：無料